

# 健ちゃんのそうなんだ

## ～ 化学物質過敏症について ～

- ❖ 私達の身の回りには多種多様な化学物質が使用されているが、こうした化学物質によっていったん過敏症になってしまうと、その後は極めて微量な化学物質によっても頭痛・動悸・めまい等の症状が起きてしまうことがある。これを化学物質過敏症と呼んでいる。
- ❖ 微量な化学物質に対して過敏に反応する人がいる。そのような方を化学物質過敏症という。
- ❖ 化学物質過敏症は、香料や印刷インク、ドライクリーニングの溶剤など身の回りにある様々な化学物質に過敏に反応してしまう。
- ❖ 化学物質過敏症の大部分が室内の空気汚染によって引き起こされている。建材や家具などの合板から、壁や床材料から、カーペットや畳などの敷物から有害な化学物質が空气中に放出される。
- ❖ 発症には、個人差が大きく、内分泌の不安定な更年期女性や免疫の低下した高齢者、自律神経系の未熟な小児に起こりやすいといわれている。
- ❖ 化学物質過敏症は、物理的な刺激や精神的なストレスがあると発症しやすいといわれている。又、目、鼻、呼吸器、皮膚への障害をはじめ、疲労感、食欲不振、精神状態の不安定さ、筋肉痛、不眠など個人差が大きく、症状も様々である。
- ❖ 多くの原因を持つ「シックハウス」の中でも特に有害化学物質が原因の症状を「化学物質過敏症」という。未だにそのメカニズムは分かっていない。
- ❖ 化学物質過敏症は、過去に多量の化学物質にさらされたことで、体の耐性限界を超えてしまったことが原因である。
- ❖ 日本でも、現在10人に1人が化学物質過敏症と言われている。アレルギー疾患よりもっと微量な、しかも広範囲の化学物質が原因となる。
- ❖ ある種の化学物質に過敏に反応を示すようになると、次から次へと他の化学物質にも反応を示す多発性化学物質過敏症となり、通常の生活はできなくなってしまう。
- ❖ 重症になると、職場に行けない、家事ができない、学校に行けない、など通常の生活も営めなくなる。極めて深刻な疾患となる。
- ❖ 個人によって化学物質を体内にとり入れられる許容量が違い、コップ一杯しかもたない人もいれば、ドラム缶一杯分の人もある。そしてその許容量を超えてしまうと、化学物質に対して体が反応し、症状を引き起こすようである。



- ❧ 極めて深刻な疾患でありながら、この疾患について知識を持ち患者に対応できる医療機関や医師は極めて限られている。患者たちは医師から「気のせい」と決めつけられ、患者としての扱いをしてもらえないことがある。このため家族からも理解してもらえない患者が少なくない。症状だけでなく、孤独にも苦しめられるのである。
- ❧ 「シックスクール」という言葉を耳にするが、子供は床に塗るワックスや、教材に含まれる化学物質、校舎の新築や改修、教師のたばこや化粧などが原因で化学物質過敏症を発症し、学校に行きたくても行けない子供達がいる。化学物質に悩む子供たちは、「私たちも勉強したいし、友だちと一緒に遊びたい」と訴えている。
- ❧ 化学物質過敏症の典型的な症状の一つに、集中力、思考力の欠陥がある。また化学物質にさらされると「キレル」子供が現実にいるという。子供がなぜキレルのか原因には、化学物質の影響も候補に入れるべきだと指摘している。
- ❧ 職場の悪環境によって発症し、休職を余儀なくされ、今でも職場へ復帰できる見込みがない人がいる。職場のアロンアルファーなどのシンナーや塗料が原因で吐き気と胸苦しさに襲われ、動けないほどにまでなってしまった。
- ❧ 住宅建材(多くの建材が化学処理されているといわれる)に使用されている化学物質による空気汚染で、化学物質過敏症が発症していることも明らかになっている。こうした対策についても、日本では1995年7月にPL法(製造物責任法)が施行されたことをきっかけに、ようやく建材の安全基準作りに着手した。
- ❧ 住まいの中から完全に化学物質を追放することは不可能である。住宅に使われるコンクリート、日常使っているプラスチック類、洗剤、暖房器具からの燃料ガス、殺虫剤、防虫剤などの薬剤などきりがないほど出てくる。そこで化学物質過敏症の予防として、換気をして化学物質を気化させて予防することが挙げられる。いったん発症してしまうと、極めてわずかな化学物質にも反応してしまうため、その予防が何より重要である。
- ❧ 「化学物質過敏症患者の会」の海老原代表は、自らが発症し、職さえも失ったという経験の中から、「化学物質を決して野放しにすることなく、嚴重に“管理”・“調査”・“研究”していくことの必要性」を訴えたが、化学物質の管理・規制のみならず、それに伴う疾患の早急な究明・対策が待たれる。



## ～ シックハウス症候群の具体的な症状 ～

- ❖ 発汗異常、手足の冷えなどの自律神経系症状
- ❖ 不眠、不安、うつ状態などの精神症状
- ❖ 運動障害、知覚異常などの末梢神経系症状
- ❖ のどの痛み、乾きなどの気道系症状
- ❖ 下痢、便秘、悪心などの消化器系症状
- ❖ 結膜の刺激症状などの眼科系症状
- ❖ 心悸亢進などの循環器系症状
- ❖ 皮膚炎、喘息、自己免疫疾患などの免疫系症状

## ～ 化学物質過敏症への対策 ～

- ❖ 化学物質をできるだけ含まない材料を選択する
- ❖ 自然素材、無垢材の使用
- ❖ 合板の使用は避ける
- ❖ 内装材に塩ビクロスの使用は避ける
- ❖ 有機溶剤を使用した接着剤や塗料の使用は避ける
- ❖ 室内換気回数を増やす

